

	<h1>生物</h1>	
--	-------------	--

教科	科目名	単位数	学年・コース	教科書名	副教材
理科	生物	5	3年一般理系	生物 (第一学習社)	フォトサイエンス生物図録(数研出版) セミナー生物(第一学習社) 別途指示する場合がある。

学習目標	高校1年次での学習を踏まえ、「分子」をキーワードとして生物とはどのような存在なのか分析的・総合的に学習することで、科学的な自然観を身に付ける。
学習の進め方	「教科書を学ぶのではなく、教科書も使って学ぶ」ことを基本方針とする。毎時間しっかりノートを取り、復習に時間をかけること。なお、教科書内容の完了は例年11月上旬頃になる
評価対象・方法	定期試験の評価をベースに、受講態度や実験・実習への貢献の程度やレポート・提出物の状況などを加味して総合的に評価する。
受講に向けての心構えと準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 「受験のための授業」というスタンスは取らない(受験準備の為の演習は「生物特講」として別の科目を設置している)が、事実上受講者の多くが上級学校への進学にこの科目を利用する実態から、講義や実験実習のテーマ選定については、これらをおある程度意識する。</li> <li>* どの教科でもそうだが、「難問」が解けることよりも基本～標準的な問題で確実に得点できることが大切である。沢山の問題集に手を出すのではなく、副教材を徹底的に活用されたい。生物の各単元は何らかの形で生物基礎の内容との関連があるので、模試などで自分の弱点の発見に努めよう。</li> </ul>

	学習事項	学習内容	備考
一 学 期	I 生命現象と物質	細胞の成分組成の中でタンパク質が構造面・機能面で果たしている役割について理解すると共に、細胞内での化学変化とこれに伴うエネルギーの流れについて理解を深める。	
	II 遺伝子のはたらき①		
	中間試験		
	II 遺伝子のはたらき② III 生殖と発生	生物の生殖と動植物の発生過程と発生をつかさどる遺伝子の機能について理解を深めることで、現代発生生物学の基礎に触れる。	
期末試験			
二 学 期	IV 生物の環境応答	神経系の発達と動物の行動の複雑性・多様性の関連について認識すると共に自律神経系と内分泌系の協働について理解を深める。また、植物成長調節物質による植物の生育相の転換との関わりについて詳しく学習する。	
	V 生態と環境①		
	中間試験		
	V 生態と環境② VI 生物の進化と系統	概要： 生命の起源と生物の変遷について地球科学的側面からの理解を深める。また、化石などの間接的挙証により構築されてきた従来の進化学説が分子進化の系統樹により見直されてきている現状について認識する。	
期末試験			